

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E112J002		美術科授業論 (Teaching Theory of Art Education)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	4	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 藤井 康子 E-mail fujii-yasuko@oita-u.ac.jp 内線 7595											
授業の概要	学生自らの実習経験から得た課題や疑問点等を手がかりに、美術教師の役割と教科の指導方法について教材研究と模擬授業の実践、授業評価、授業リフレクションによる検証を通して考察する。各自の設定するテーマに基づいた教材を作成して模擬授業を行い、実践的な視点から指導上の問題点を発見し、解決方法を見出す能力と態度を育成する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	中学美術・高等美術の教科内容を理解し、自分なりの教材・題材が構想できる。																
目標2	発達段階を踏まえた適切な指導の在り方を自ら考え、模擬授業を実施できる。																
目標3	授業分析と評価を通して模擬授業の成果と課題を捉え、教材と指導方法を再構成できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 授業実践(ビデオ)の観察と授業検証-指導方法の検討と授業評価について																	
2 「表現」デザインに表現する活動の授業計画及び評価方法、授業改善の工夫																	
3 中学美術・高校美術の「表現」デザイン教材の開発 - 題材の検討、制作プロセスの構想																	
4 中学美術・高校美術の「表現」デザイン教材の開発 - 参考作品の制作																	
5 中学美術・高校美術の「表現」デザイン教材の開発 - 授業プランの検討、学習指導案の作成																	
6 第1回 模擬授業及び授業評価、研究討議																	
7 「表現」映像メディア表現の授業計画及び評価方法、授業改善の工夫																	
8 中学美術・高校美術の「表現」映像メディア教材の開発 - 題材の検討、制作プロセスの構想																	
9 中学美術・高校美術の「表現」映像メディア教材の開発 - 参考作品の制作																	
10 中学美術・高校美術の「表現」映像メディア教材の開発 - 授業プランの検討、学習指導案の作成																	
11 第2回 模擬授業及び授業評価、研究討議																	
12 「鑑賞」と「表現」の一体化を図る授業計画及び評価方法、授業改善の工夫																	
13 中学美術・高校美術の「鑑賞」と「表現」の一体化を図る授業の立案 - 題材の検討、授業プランの作成																	
14 中学美術・高校美術の「鑑賞」と「表現」の一体化を図る授業の立案 - 学習指導案の作成																	
15 第3回 模擬授業及び授業評価、研究討議																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	各々の学生が参考作品を製作し、学習指導案を作成する。模擬授業と研究討議を行い、指導方法について考える。					工夫	模擬授業をデジタルビデオカメラで撮影し、動画(ムービー)の書き起こしを通して自らの授業分析を行い、指導の改善と工夫すべき点を認識する。									
ニティ	B:意見の表現・交換																
グ	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備	日頃から美術に関心を持ち、日本及び世界の美術作品を見る機会をつくること。(4h)															
	学修	各回の授業で取り上げる内容について、事前に学習指導要領等で該当する範囲を読み予習しておくこと。(7h)															
	事後	用具や材料に関する資料や参考文献を読み、造形に対する知識を深めること。(8h)															
	学修	参考とする教科書と学習指導要領の内容を読み深め、自らの具体的な指導内容・方法を構築すること。(7h)															
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』平成29年告示。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』平成30年告示。 この他、必要に応じて資料を配布する。																
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』、令和2年3月。 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」(高等学校編)、令和元年6月。 中学美術(令和3年及びそれ以前のもの)、高校美術(現行及びそれ以前のもの)の教科書。 																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	指導案の作成・演習への取り組み	50%															
	模擬授業の実施	30%															
	授業分析等	20%															
注意事項	教材開発に必要な用具・材料については、各自で準備すること。																
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。																
リンク																	
	URL																